

公認心理師養成 大学院教育カリキュラム案

合計 36 単位

科目区分	科目名	単位数	備考
基幹科目（必修）	基幹科目	14	必修
	心理アセスメント特論	2	必修
	心理支援特論	2	必修
	関係者援助論	2	必修
	予防心理教育特論	2	必修
	公認心理師関連行政・倫理特論	2	必修
	臨床心理学特論	2	必修
	心理学研究法演習	2	必修
展開科目 援助技法関連科目	援助技法関連科目 カウンセリング特論、心理療法特論、 グループ・アプローチ特論、コミュニティ・ アプローチ特論、危機介入法特論など	16 4	選択必修
実践領域関連科目	A 医療保健領域関連科目 精神医学特論 医療心理学特論、生理・神経心理学特論(※)、 心身医学特論、精神神経薬理学特論など	4 2 2	選択必修 必修 選択必修
	B 教育領域関連科目 学校心理学特論、スクール・カウンセリング 特論、認知・学習心理学特論(※)、 発達心理学特論(※)、学生相談学特論など	2	選択必修
	C 福祉領域関連科目 障害児(者)心理学特論、臨床心理地域援助 特論、乳幼児・児童心理学特論、高齢者心理学 特論、発達心理学特論(※)、家族心理学特論 など	2	選択必修
	D 司法・矯正領域関連科目 司法・矯正心理学特論、犯罪心理学特論、 人格心理学特論、司法・矯正関連行政論など	2	選択必修
	E 産業領域関連科目 産業カウンセリング特論、組織心理学 特論、 社会心理学特論(※)、人間関係学特論など	2	選択必修

実践実習科目	実践実習科目	6	必修
	実習Ⅰ(学内施設)(M1年前期) 45h ① ロールプレイ* 5h ② 心理テスト実習など** 10h ③ インテーク面接陪席・グループセッション助手など 5h ④ ケースカンファレンス 25h	1	* 面接、電話受付など ** 人格・知能テストなど
	実習Ⅱ(学内施設)(M1年後期) 45h ① 陪席・助手、試行面接、インテーク面接、ケース担当 15h ② ケースカンファレンス 30h	1	実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの担当ケースは、M1からM2において最低3ケースの担当を必要とし、そのうち1ケースは子どもとすることが望ましい。担当ケースについては、個人スーパービジョン(1ケース以上)を受ける。
	実習Ⅲ(学内施設)(M2年前期) 45h ① ケース担当(含施設運営実習) 15h ② ケースカンファレンス 30h	1	
	実習Ⅳ(学内施設)(M2年後期) 45h ① ケース担当(含施設運営実習) 15h ② ケースカンファレンス 30h	1	
	実習Ⅴ(学外施設)(M1ないしM2) 90h (医療領域、福祉領域、教育領域、その他の領域) ① ガイダンス・見学実習 10h ② 参加実習(一部・担当) 80h	2	

註：

基幹科目7科目は14単位必修。

展開科目の援助技法関連科目は、4単位以上選択必修。

展開科目の実践領域関連科目では、Aは4単位以上(内2単位精神医学特論は必修)、B～Eはそれぞれ2単位以上の選択必修(計16単位以上)。ただし、※の付いた科目を4単位以上選択すること。

実践実習科目は6単位必修。

以上、公認心理師の養成に関わるカリキュラムは、計36単位以上の取得とする。

修士論文提出・審査合格は公認心理師資格の受験要件となるが、単位化はされない。

実践実習科目のhは、60分を意味する。